



今日のトピック 新型肺炎の影響を受け上値が重い日本株式市場 景気は経済対策効果等から第2四半期以降持ち直しそう

ポイント1

上値の重い日本株式市場 新型肺炎の感染拡大の影響を懸念

- 2月12日の日経平均株価は2万3,861.21円と2万4,000円を前に上値の重い展開となっています。12カ月先予想利益ベースの株価収益率（PER）は17.4倍ですが、現在の予想利益や長期金利の水準などを勘案すると、決して割高ではありません。現在上値が重いのは、1月後半から発生した新型コロナウイルスによる新型肺炎の感染拡大と世界経済及び企業業績に与える影響に対する懸念が背景です。

ポイント2

時間を要す業績回復期待 実質GDPはマイナス成長へ

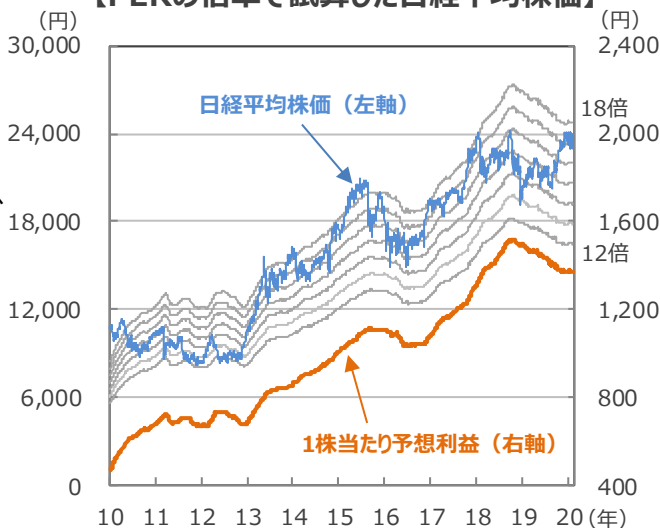
- 現在発表が進んでいる2019年10-12月期決算は、売上が前年同期比▲2.7%、営業利益が同▲6.9%、経常利益が同+3.1%と、市場コンセンサスよりも下振れる見通しです（2月12日現在、東証1部（除く金融）3月期決算企業、QUICK集計）。また、新型肺炎は、1-3月期の実質GDP成長率を年率0.12%押し下げると試算されます。弊社では2019年10-12月期の実質GDP成長率が前期比年率▲4.0%、2020年1-3月期も新型肺炎の影響などで同▲0.3%とマイナス成長が続くと見えています。業績回復には時間がかかりそうです。

今後の展開

景気は4-6月期以降プラス成長へ。業績にも改善期待

- 弊社では、新型肺炎は4-6月以降収束に向かうと見ており、2020年4-6月期の実質GDP成長率を同+1.9%、7-9月期を同+1.8%と予想します。昨年12月に決定した「安心と成長の未来を拓く総合経済対策」（真水9.4兆円）の効果に加え、輸出環境の安定が見込めるためです。こうした見通しを踏まえ、業績の改善期待が高まり、株式市場は次第に堅調さを取り戻すと考えられます。

【PERの倍率で試算した日経平均株価】



（注）データは2010年1月4日～2020年2月12日。株価収益率（PER）の倍数（12倍～18倍）に1株当たり予想利益をかけて日経平均株価の水準を試算。1株当たり予想利益は12カ月先予想（Bloomberg L.P.集計）。
（出所）Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【新型肺炎が日本経済に及ぼす主な影響】

需要項目	経路	GDPへの影響
輸出	訪日外客数が落ち込みインバウンド消費が減少。	▲0.10
	海外景気の悪化で財輸出が減少。	
輸入	出国日本人数が落ち込み、アウトバウンド消費が減少。	0.03
個人消費	外出を控え、国内旅行・レジャー支出が減少。	▲0.04
設備投資	需要の落ち込み、不確実性の高まりで慎重化。	▲0.03
GDP		▲0.12

（注）経路は2020年1-3月期を想定。GDPへの影響は年率（%）。重症急性呼吸器症候群（SARS）発生時のデータを参考に弊社試算。GDPへの影響は四捨五入の関係で合計が一致しないことがあります。
（出所）各種資料を基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ここも チェック!

2020年2月10日 『新型肺炎』感染拡大への不安の先を見極めよう
2020年1月21日 日銀は現状の大規模緩和策を維持（2020年1月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。